

2022年の大雨

令和4年8月から9月は前線や台風等の影響により各地で大雨

1. 概要

2022年（令和4年）の梅雨入りは、九州南部、近畿地方、東海地方でかなり遅く、九州北部地方、四国地方、中国地方で遅かった。一方、沖縄地方、奄美地方、北陸地方、東北南部、東北北部で早かった。

梅雨明けは、奄美地方でかなり早く、沖縄地方で早かった。一方、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方、近畿地方、関東甲信地方で遅かった。北陸地方、東北南部、東北北部では梅雨明けの時期を特定できなかった。

梅雨の時期の降水量（6～7月、沖縄と奄美は5～6月）は、沖縄地方と奄美地方でかなり多く、東海地方で多かった。沖縄地方では、1951年の統計開始以降、最も多かった。一方、九州北部地方、中国地方、北陸地方で少なかった。

また、8月から9月は前線や台風等の影響により各地で大雨となった。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、それぞれの事例に対する発生場所と気象と災害の状況をまとめた。

(1) 8月1日～8月6日：西日本～北日本（大雨） ＜前線＞

8月1日から6日にかけて、日本海から東北地方や北陸地方にのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、北日本や北陸地方を中心に大雨となった。

3日から4日にかけては東北南部から新潟県にかけて前線が停滞し、活動が活発化した。複数の線状降水帯が発生するなどしたため、雷を伴った猛烈な雨が断続的に降り、多くのアメダス地点で1時間降水量や24時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど、東北地方から北陸地方にかけて大雨となった。特に山形県と新潟県では記録的な大雨となり、新潟県では降り始めからの降水量が平年の8月の月降水量の2倍を超えた。この大雨で、気象庁は山形県と新潟県を対象に大

雨特別警報を発表した。前線は次第に南下し、4日は石川県や福井県でも断続的に猛烈な雨が降り記録的な大雨となったほか、5日から6日にかけては福井県や滋賀県、三重県などで大雨となった。

これらの大雨により、北日本や北陸地方を中心に、土砂災害や河川の増水や氾濫、浸水害等が発生した。また、住家被害が発生し、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した（被害の状況は令和4年11月1日の内閣府とりまとめ等による）。

(2) 9月17日～9月20日：全国（大雨、暴風、高波、高潮）＜台風＞

9月14日03時に小笠原近海で発生した台風第14号は、日本の南を北西に進み、17日03時には大型で猛烈な強さまで急速に発達した。台風は18日19時頃に、大型で非常に強い勢力で鹿児島県に上陸し、19日朝にかけて九州を縦断した。その後、進路を東寄りに変え、中国地方から日本海を進み、20日03時に日本海で温帯低気圧に変わった。

この台風の接近、通過、上陸により、九州を中心に西日本から北日本の広い範囲で最大風速20m/s以上の非常に強い風を観測するなど各地で暴風となり、鹿児島県屋久島町では最大瞬間風速50.9m/sを観測したほか、九州から中国地方及び近畿地方にかけての多くの地点で、最大瞬間風速の観測史上1位の値を更新した。海上は猛烈なしけや大しけとなり、警報基準を超える高潮となったところがあった。

台風周辺や台風本体の発達した雨雲が長時間かかり、また線状降水帯が発生したため、九州や四国地方を中心に大雨となった。宮崎県では17日から20日にかけての降水量が多いところで900mmを超えるなど、九州や四国地方の複数の地点で平年の9月の月降水量の2倍前後となった。この大雨で、気象庁は宮崎県を対象に大雨特別警報を発表した。

この台風によって、西日本を中心に、土砂災害、河川の増水や氾濫、浸水害等が発生し、人的被害や住家被害が発生した。また、大規模な停電、断水、電話の

不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行止め、鉄道の運休、航空機の欠航等の交通障害が発生した（被害の状況は令和4年11月2日の内閣府とりまとめ等による）。

(3) 9月22日～9月24日：西日本～北日本（大雨） ＜台風＞

9月22日09時に日本の南で発生した台風第15号は、日本の南を北上し、近畿地方に接近した後、23日21時に紀伊半島の南で熱帯低気圧に変わり、24日09時に東海道沖で温帯低気圧に変わった。

台風や台風から変わった低気圧、前線の影響で四国地方から北日本では雨となり、台風の北側の発達した

雨雲がかかった東海地方を中心に大雨となった。静岡県や愛知県では23日夕方から24日明け方にかけて、複数の線状降水帯が発生し、雷を伴った猛烈な雨や非常に激しい雨が降って、記録的な大雨となった。特に静岡県では猛烈な雨が降り続き、記録的短時間大雨情報が多数発表されたほか、複数の地点で24時間降水量が400mmを超えて平年の9月の月降水量を上回り、観測史上1位の値を更新した。

この大雨により、静岡県を中心に土砂災害、河川の増水や氾濫、浸水害等が発生し、人的被害や住家被害が発生したほか、停電や断水等ライフラインへの被害や鉄道の運休等の交通障害が発生した（被害の状況は令和4年11月2日の内閣府とりまとめ等による）。

気候情報

2022年の台風

発生数は25個、日本への接近数は11個、上陸数は3個でいずれも平年並。

1. 概要

台風の発生数は25個（平年値（1991-2020の平年値）25.1個）であった。日本への台風の接近数は11個（平年値11.7個）で、日本への台風の上陸数は3個（平年値3.0個）であった。

第1表に台風の発生数、接近数、上陸数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風（本稿では台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合とする）のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第1号（2201 MALAKAS マラカス）

4月6日15時にチューク諸島近海で発生した熱帯低気圧は西へ進み、進路を北北西へ変えた後、8日09時にカロリン諸島近海で台風第1号となった。台風はその後北西へ進み、12日09時に進路を北東へ変え、14日

03時にフィリピンの東海上で最大勢力となった。15日21時に日本の東で温帯低気圧に変わり、アリューシャン近海へ進み、18日09時までに東経180度を越えた。

(2) 台風第4号（2204 AERE アイレー）

6月30日21時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、7月1日03時同海域で台風第4号となった。台風は北北東へ進み、進路を北西へ変えた後、2日15時に沖縄本島付近で最大勢力となった。2日23時頃に沖縄本島付近を通過し、進路を北東へ変え、5日06時前に長崎県佐世保市付近に上陸した。台風は5日09時までに九州北部地方で温帯低気圧に変わり、瀬戸内海を東へ進み紀伊半島に向かい、太平洋に進んだ。その後、日本の東海上を進み、11日03時に北海道の南海上で消滅した。

(3) 台風第5号（2205 SONGDA ソングダー）

7月26日21時にマリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、28日21時に日本の南海上で台風第5号となった。台風は29日21時に九州の南西海上

で最大勢力となり、黄海で減速し進路を北へ変えた。8月1日03時に熱帯低気圧に変わり、同日21時に同海域で消滅した。

(4) 台風第6号 (2206 TRASES トローセス)

7月29日21時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、次第に進路を北へ変え、31日09時に同海域で台風第6号となり、同時に最大勢力となった。台風は8月1日21時に朝鮮半島の西海岸付近で熱帯低気圧に変わり、2日09時に朝鮮半島北部で消滅した。

(5) 台風第8号 (2208 MEARI メアリー)

8月9日03時に南鳥島の西海上で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、11日21時に日本の南海上で台風第8号となった。台風は北北東へ進み、12日21時に同海域で最大勢力となった。台風は次第に進路を北東へ変え、13日15時前に静岡県御前崎付近を通過し、同日17時半頃に伊豆半島に上陸した。台風は日本の東海上から千島近海へ進み、14日21時までに温帯低気圧となった。温帯低気圧は次第に進路を北へ変え、17日03時前に北緯60度を越えた。

(6) 台風第11号 (2211 HINNAMNOR ヒンナムノ)

8月28日03時に南鳥島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、同日15時に同海域で台風第11号となった。台風はその後西へ進み、30日21時に南大東島近海

で最大勢力となった。台風は次第に勢力を弱めつつ進路を南へ変え、9月1日に沖縄の南海上で速度を落とした。2日に同海域で進路を大きく北へ変え、4日に再び発達しながら東シナ海を北上した。台風は対馬海峡を通過し、北東へ進み、その後勢力を弱めながら日本海を進み、6日21時までに温帯低気圧に変わった。温帯低気圧はオホーツク海に進み9日09時までに北緯60度を越えた。

(7) 台風第12号 (2212 MUIFA ムイファー)

9月4日03時に小笠原諸島の東海上で発生した熱帯低気圧は西南西へ進み、進路を南南西へ変えた後西へ変え、8日03時にフィリピンの東海上で台風第12号となった。台風は、次第に進路を北へ変え速度を落とし、11日09時に沖縄の南海上で最大勢力となった。台風は勢力を少し弱め、12日12時頃に石垣島付近を通過した後、再び発達し速度を速めながら東シナ海を北北西へ進んだ。華中に上陸した後、進路を北北東へ変え、16日09時までに山東半島付近で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は進路を北東へ変え、17日15時に中国東北区で消滅した。

(8) 台風第14号 (2214 NANMADOL ナンマドル)

9月12日21時に日本の南海上で発生した熱帯低気圧は約1日間反時計回りに進み、その後東北東へ進み14日03時に小笠原諸島の南海上で台風第14号となった。台風は同日15時に進路を大きく西へ変え、その後急速

第1表 令和4年(2022年)の台風発生数*1、日本への接近数*2、日本への上陸数*3と令和3年(2021年)及び平年値との比較。

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
平年値	発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
	接近数				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
	上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0
令和3年(2021年)	発生数		1		1	1	2	3	4	4	4	1	1	22
	接近数				1		2	2	3	1	2		1	12
	上陸数							1	1	1				3
令和4年(2022年)	発生数				2		2	2	5	7	5	1	1	25
	接近数				1			3	3	6				11
	上陸数							1	1	1				3

(注)・平年値は、平成3年(1991年)～令和2年(2020年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

発生*1 「発生」は協定世界時(UTC)を基準とする。

接近*2 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「接近」という。

上陸*3 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

第2表 令和4年(2022年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		海面気圧		台風期間中の最低(大)値		強風半径		熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時	
		月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時北緯東経	月日時hPa	月日時m/s	月日時km	月日時北緯東経	月日時北緯東経	種類	月日時北緯東経	種類		
1	MALAKAS	4 6 15 3.4 150.2	4 8 09 5.1 145.9	4 14 15 945	4 14 15 45	4 15 18	E : 950 W : 560	4 15 21 30.0 143.7	L	4 18 09	L	域外			
2	MEGI	4 9 03 10.3 127.4	4 10 03 10.8 125.9	4 10 09 996	4 10 09 20	4 11 03	W : 220 E : 165	4 11 09 11.4 125.0	TD	4 12 09	TD	11.4 125.0			
3	CHABA	6 29 03 14.6 116.5	6 30 09 15.8 115.5	7 2 15 965	7 2 15 35	7 2 15	SE : 650 NW : 330	7 3 15 24.4 110.6	TD	7 8 03	TD	39.1 124.8			
4	AERE	6 30 21 19.1 131.0	7 1 03 19.6 130.9	7 2 23 994	7 2 23 23	7 2 23	E : 390 W : 185	7 5 09 33.0 131.0	L	7 10 21	L	41.5 143.0			
5	SONGDA	7 26 21 14.9 143.3	7 28 21 22.5 139.0	7 31 21 996	7 29 21 20	7 29 03	N : 650 S : 280	8 1 03 34.9 123.1	TD	8 1 15	TD	35.3 123.3			
6	TRASES	7 29 21 20.3 128.7	7 31 09 25.7 127.9	8 1 09 998	8 1 15 18	8 1 09	E : 390 W : 280	8 1 21 36.3 126.4	TD	8 2 03	TD	37.9 125.8			
7	MULAN	8 8 09 16.3 110.1	8 9 15 17.3 113.5	8 10 03 994	8 11 03 18	8 10 03	NE : 600 SW : 390	8 11 09 21.4 106.0	TD	8 11 15	TD	21.5 104.1			
8	MEARI	8 9 03 23.9 148.8	8 11 21 28.8 135.6	8 14 15 996	8 14 15 20	8 14 15	SE : 330 NW : 165	8 14 21 44.0 150.0	L	8 17 03	L	域外			
9	MA-ON	8 21 09 17.6 127.8	8 22 03 16.4 125.3	8 25 09 985	8 25 09 30	8 25 03	E : 440 W : 220	8 26 09 21.4 104.4	TD	8 26 09	TD	21.4 104.4			
10	TOKAGE	8 21 15 22.0 151.0	8 22 09 24.0 151.6	8 24 15 970	8 24 15 40	8 24 15	E : 390 W : 280	8 26 03 45.1 158.3	L	8 27 09	L	域外			
11	HINNAMNOR	8 28 03 23.8 151.1	8 28 15 25.9 149.5	8 31 06 920	8 31 06 55	9 4 21	SW : 700 NE : 600	9 6 21 44.0 137.0	L	9 9 09	L	域外			
12	MUIFA	9 4 03 25.6 146.6	9 8 03 16.8 133.5	9 11 18 950	9 11 18 45	9 12 06	N : 330 S : 240	9 16 09 37.7 121.5	L	9 17 09	L	43.6 129.0			
13	MERBOK	9 10 21 20.6 158.0	9 11 21 20.8 160.5	9 15 09 965	9 15 03 35	9 15 09	E : 700 W : 280	9 15 15 41.4 167.0	L	9 17 03	L	域外			
14	NANMADOL	9 12 21 22.3 138.7	9 14 03 22.4 140.1	9 17 21 910	9 17 21 55	9 20 00	750	9 20 03 37.6 138.4	L	9 20 09	L	39.0 143.0			
15	TALAS	9 21 03 21.1 140.9	9 22 09 25.9 137.4	9 23 15 1000	9 23 15 18	9 23 15	NE : 370 SW : 95	9 23 21 32.6 136.6	TD	9 27 21	TD	39.5 148.1			
16	NORU	9 21 15 17.4 133.0	9 23 03 17.9 133.5	9 25 15 940	9 25 15 50	9 28 15	NW : 440 SE : 280	9 28 21 16.0 105.0	TD	9 29 15	TD	16.0 103.3			
17	KULAP	9 25 09 19.9 147.3	9 26 09 23.1 144.2	9 29 15 965	9 29 03 30	9 29 15	750	9 29 21 44.4 162.6	L	10 1 21	L	域外			
18	ROKE	9 28 09 21.1 132.5	9 28 21 23.0 131.7	9 30 15 975	9 30 15 35	10 1 21	NE : 370 SW : 280	10 2 03 35.4 149.9	L	10 5 15	L	41.1 165.9			
19	SONCA	10 13 15 12.8 113.9	10 14 09 14.1 111.9	10 15 03 998	10 15 03 18	10 15 03	NW : 440 SE : 220	10 15 09 15.5 107.8	TD	10 15 09	TD	15.5 107.8			
20	NESAT	10 14 21 18.9 128.2	10 15 15 18.9 124.1	10 18 15 965	10 18 15 40	10 15 21	N : 440 S : 280	10 20 09 17.4 108.4	TD	10 20 15	TD	17.7 108.2			
21	HAITANG	10 17 09 27.0 156.4	10 18 09 28.7 158.6	10 19 15 1004	10 19 15 18	10 19 09	SE : 280 NW : 165	10 19 21 36.5 167.8	L	10 20 21	L	域外			
22	NALGAE	10 26 09 10.1 134.9	10 27 09 10.9 132.2	11 1 15 975	11 1 15 30	10 29 15	750	11 3 03 21.6 113.9	TD	11 3 09	TD	21.9 113.4			
23	BANYAN	10 28 15 6.8 140.4	10 31 03 8.1 135.2	10 31 15 1002	10 31 09 20	10 31 21	S : 185 N : 75	11 1 09 7.1 129.8	TD	11 3 09	TD	6.7 127.4			
24	YAMANAKO	11 11 21 19.8 167.3	11 12 21 21.1 165.5	11 14 09 1004	11 14 09 18	11 14 09	NE : 330 SW : 165	11 14 15 24.9 166.0	TD	11 15 03	TD	28.8 168.2			
25	PAKHAR	12 10 09 14.0 124.7	12 11 21 18.2 127.0	12 12 09 998	12 12 09 20	12 12 15	N : 280 S : 165	12 12 21 20.3 131.5	L	12 12 21	L	20.3 131.5			

表中の日はすべて日本時 (JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

に発達し、16日03時に進路を北西へ変え、17日03時に南大東島の東海上で最大勢力となった。台風は、北北西へ進み、18日13時半頃に鹿児島県屋久島付近を通過し、進路を北へ変え、同日17時半頃鹿児島県指宿市付近を通過し、同日19時頃鹿児島県鹿児島市付近に上陸した。台風は北上を続け、19日03時頃有明海から福岡県柳川市付近に再上陸した。台風は次第に進路を北東へ変え、勢力を落としつつ同日15時頃日本海へ進み、次第に進路を東へ変え、20日03時までに同海域で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は本州を東北東に横断

し、20日15時に日本の東海上で消滅した。

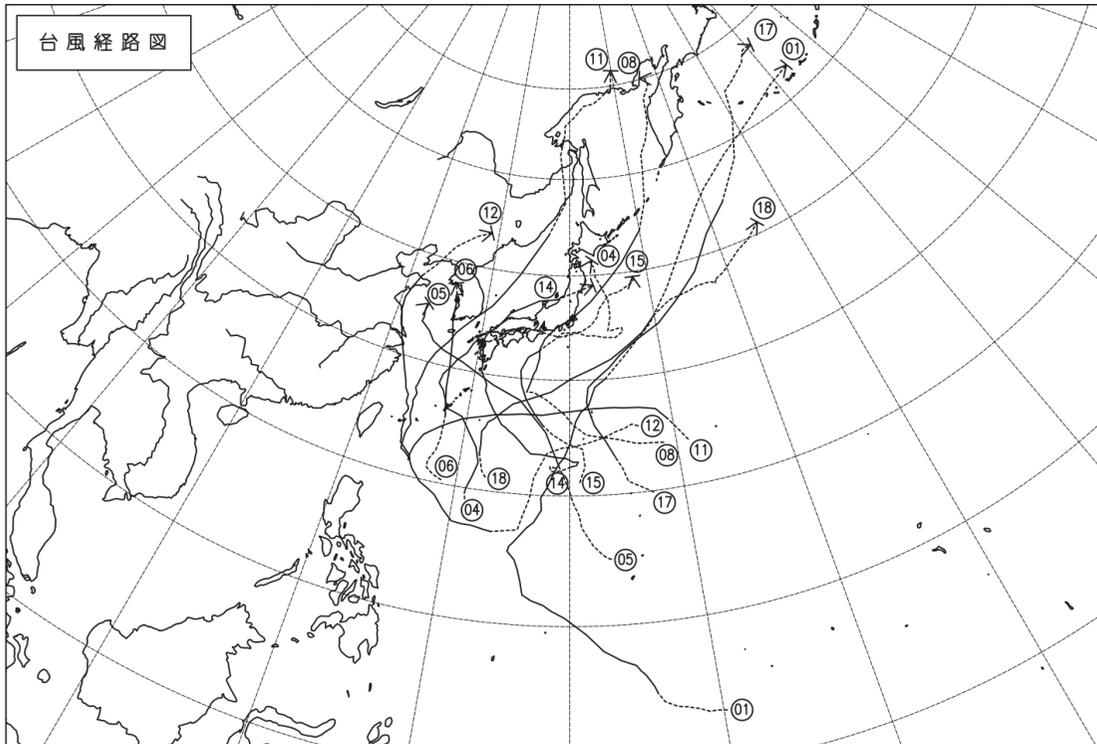
(9) 台風第15号 (2215 TALAS タラス)

9月21日03時に小笠原近海で発生した熱帯低気圧は同日15時にかけて北へ進み、次第に進路を北西へ変え、22日09時に日本の南海上で台風第15号となり、同時に最大勢力となった。台風は進路を北西から次第に北へ変え、23日21時に紀伊半島の南で熱帯低気圧に変わり、北東へ進んだ後、24日09時までに静岡県南海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は日本の東海

第3表 令和4年(2022年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)。

台風番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合)				日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合)				上陸、通過
	月日		地域	月日		地域			
	始	終		始	終				
1	4/15	4/15	伊豆諸島, 小笠原諸島	4/15	4/15	伊豆諸島, 小笠原諸島	上陸、通過なし。		
4	7/1	7/5	沖縄・奄美, 西日本	7/2	7/5	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	2日23時頃, 沖縄本島付近を通過した。 5日06時前, 長崎県佐世保市付近に上陸した。		
5	7/29	7/31	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 伊豆諸島, 小笠原諸島	7/29	7/30	奄美地方, 九州南部, 九州北部地方	上陸、通過なし。		
6	7/31	8/1	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方	7/31	8/1	沖縄・奄美, 九州北部地方	上陸、通過なし。		
8	8/11	8/14	西日本, 東日本, 北日本	8/12	8/14	四国地方, 近畿地方, 東日本, 北日本	13日15時前, 静岡県御前崎付近を通過した。 13日17時半頃, 静岡県伊豆半島に上陸した。		
11	8/29	9/6	沖縄・奄美, 西日本, 東海地方, 伊豆諸島, 小笠原諸島, 北陸地方, 北日本	8/29	9/6	沖縄・奄美, 九州北部地方, 中国地方, 伊豆諸島, 小笠原諸島	上陸、通過なし。		
12	9/10	9/14	沖縄・奄美	9/10	9/14	沖縄地方	12日12時頃, 沖縄県石垣島付近を通過した。		
14	9/14	9/20	沖縄・奄美, 西日本, 東日本, 東北地方	9/17	9/20	沖縄・奄美, 西日本, 東海地方, 関東地方, 甲信地方, 北陸地方, 東北地方	18日13時半頃, 鹿児島県屋久島付近を通過した。 18日17時半頃, 鹿児島県指宿市付近を通過した。 18日19時頃, 鹿児島県鹿児島市付近に上陸した。 19日03時頃, 福岡県柳川市付近に再上陸した		
15	9/22	9/23	西日本, 東日本	9/23	9/23	四国地方, 近畿地方, 東海地方	上陸、通過なし。		
17	9/26	9/28	伊豆諸島, 小笠原諸島	9/26	9/27	伊豆諸島, 小笠原諸島	上陸、通過なし。		
18	9/28	10/1	沖縄・奄美, 九州南部, 伊豆諸島, 小笠原諸島	9/28	9/30	沖縄地方	上陸、通過なし。		

台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。



第1図 台風経路図.

上を進み、28日03時に北海道の南東海上で消滅した。

(10) 台風第17号 (2217 KULAP クラー)

9月25日09時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、26日09時に小笠原近海で台風第17号となった。台風は次第に進路を北東へ変えつつ加速し、28日09時に日本の東海上で最大勢力となった。台風は北東の進路を維持したまま、29日21時までに千島の東海上で温帯低気圧に変わり、10月1日21時前にベーリング海で東経180度を越えた。

(11) 台風第18号 (2218 ROKE ロウキー)

9月28日09時に日本の南海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、同日21時に南大東島の南で台風第18号となった。台風は進路を北東から東北東へ変え、30日09時に日本の南海上で最大勢力となった。台風は次第に進路を北東へ変え、10月2日03時までには日本の東海上で温帯低気圧に変わり、5日21時に日本のはるか東海上で消滅した。